



ミクロな視点でグローバルな支援のメカニズムをさぐる

のぶた としひろ
信田 敏宏

民博 研究戦略センター

情報のグローバル化にともない、遠く離れた地域の状況を知り、その情報を世界の人びとが共有できる時代となった。それとともに人類学が研究のフィールドとしてきた周辺地域においても、NGOを代表とするあらゆる協力活動が生まれ、現地の生活環境にさまざまな変化をうみだしている。本研究では、人類学のミクロな視点を生かしつつ、NGOの活動現場における新たな人間関係とグローバルな支援のメカニズムをさぐりたい。

地球規模で広がる支援の輪

今日、NGOを代表とする市民社会のアクターは、人類学のフィールドにおいてより大きな存在となってきた。たとえば、わたしが研究のフィールドとしているマレーシアの先住民オラン・アスリ社会の場合、一九九〇年代以降、NGOがフィールドである村に登場したが、当時、NGOにかかわる村人はごく少数であり、実際にNGOがオラン・アスリ社会全体に与える影響も少なかった。しかし、二〇〇〇年を過ぎるころから、次第にNGOにかかわる人びとが増え始め、オラン・アスリに対するNGOの支援活動も活発化してきた。今日では、オラン・アスリの調査をおこなううえでは、NGOの存在を無視できない状況となっている。また、NGOが主張するさまざまな問題、たとえば、土地の所有権や先住民の権利に、人類学者自身も関心をもつようになっていく。

NGOの登場によって、フィールドの村の人びとの人間関係に変化が生じてきた。従来、村の人びとは、血縁や地縁に基づく関係性のなかで生活を送っていたが、近年では、NGOを媒介として、それまでの血縁や地縁に基づく関係性を超えた友人・知人のネットワークが広がっている。村の人びと、特に若い世代の人びとは、従来は見られなかった新たな関係性のなかで生きる



学生ボランティアが訪問したマレーシア先住民の村

ようになっている。たとえば、フェイスブックなどの電子メディアを利用し、グローバルなネットワークとつながることで、その関係性をさらに発展させている。おそらく、NGOと人類学が接近している状況や人びとの関係性が変化している状況というのは、世界各地でフィールドワークをおこなっている人類学者であれば、程度の差はあれ、実感している事柄なのではないかと思われる。他の地域の状況やNGOと人類学の関係性に興味を抱いたわたしは、民博の同僚と議論を重ね、その結果、NGO活動の現場に関する人類学的な共同研究プロジェクトを立ち上げることにした。

ミクロな視点を活用する

本研究の目的は、ふたつである。ひとつは、NGO活動の現場における人びとの新たな関係性を明らかにすることであり、もうひとつは、グローバル支援のメカニズムを人類学のミクロな視点を生かしてローカルな現場から解明していくことである。共同研究会では、NGO活動に参加するそれぞれのアクターがいかにして新たな関係性を構築しているのか、そして、ローカルな場における人びとの関係性がNGOを媒介としていかにしてグローバル化していくのかを検討していく。さらに欲をいえば、グローバル市民社会論などの新しい市民社会のあり方について人類学の立場からアプローチしていきたいと考えている。

本研究はまた、NGOに関するこれまで

の研究に人類学の立場から一石を投じるものになると期待している。従来、NGOの研究といえば、組織論や類型論など「NGOはこうあるべきだ」という規範的な研究が多く、グローバルな組織とローカルな組織あるいは現場との複雑な影響関係を十分に把握しきれなかった。その意味で、人類学研究である本研究は、ローカルな現場に着眼点を置くことにより、既存の研究に新たな考察を加えることができる

「新しい市民社会」の構築を目指して

今日の世界では、電子メディアを媒介とした人びとの相互作用が、これまでにない速度でグローバルに広がり、ローカルな場へも深く浸透するようになってきている。

人びとはインターネットを媒介として、自らが世界の人びとと直接つながっているようなイメージを抱くようになった。これは、従来、人類学のフィールドでは、あまり観察されえなかったイマジネーションのあり方である。NGO活動の現場でも同様の事態が起きているが、そうした局面の変化に対応した研究は、今のところ、あ



マレーシア先住民を支援するNGOスタッフ

まり出てきていない。それゆえ、こうした側面に着目する本研究は、学術面と実践面の双方において、意義深いものになると考えている。本研究の目指す方向の彼方には、「市民社会」をめぐる研究領域が広がっている。「市民社会」の理念そのものがグローバルに展開されている現在では、従来の西欧中心の市民社会論に対して、その限界が指摘されるはじめており、「新しい市民社会」論の必要性が高まってきている。このような「市民社会」に関する議論の潮流に対して、本研究では、既存の市民社会論を進展させ、グローバル市民社会論などの理論を加えながら、「新しい市民社会論」の構築を目指したい。

また、本研究では、人類学的フィールドワークの問い直しもおこなっていききたいと考えている。研究者としての立場や学問の位置づけを考慮しながら、NGOとの連携を視野に入れた新たなフィールドワークの可能性について検討していきたい。

共同研究

「NGO活動の現場に関する人類学的研究——グローバル支援の時代における新たな関係性への視座」
2011年10月〜2014年3月
代表者：信田敏宏